

次世代型農業生産構造確立特区 [指定：平成23年12月、認定：平成24年11月]

I 目標に向けた取組の進捗に関する評価

i) + ii) の平均値 $(5.0+4.0) \div 2 = 4.5$

4.5

i) 取組の進捗

目標値に対する実績に基づく進捗度(当年度実績)

番号	評価指標	進捗度	評点
1	中心経営体への農地集積	129%	5
2	再生可能エネルギーの利用促進	125%	5
3	経営の多角化等による新たな雇用の確保	142%	5

評価指標毎の進捗の評価の平均値 $(5 \times 3 + 4 \times 0 + 3 \times 0 + 2 \times 0 + 1 \times 0) \div 3 = 5.0$

5.0

・1つの評価指標に複数の数値目標がある場合は、各数値目標の評価を寄与度に応じて加重平均する。
 (例) 評価指標1について、a、b、cという3つの数値目標があり、各数値目標の評点・寄与度がa:5・20%、b:4・10%、c:3・70%の場合、 $5 \times 0.2 + 4 \times 0.1 + 3 \times 0.7 = 3.5$ で、四捨五入して評価指標1の評価は「4」となる。

■ 地方公共団体による特記事項

※外部要因による数値への大幅な影響等があれば記載

ii) 取組の方向性に対する評価

専門家による評価の平均値

4.0

II 支援措置の活用と地域独自の取組の状況に関する評価

i)、ii)、iii) の平均値 $(2.3+3.7+3.5) \div 3 = 3.2$

3.2

i) 規制の特例措置を活用した事業等の評価

専門家による評価の平均値

2.3

ii) 財政・税制・金融支援の活用実績の評価

専門家による評価の平均値

3.7

iii) 地域独自の取組の状況の評価

専門家による評価の平均値

3.5

Ⅲ 取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決に関する評価

(専門家所見(主なもの))

3.3

- ・すべての評価指標において実績値が目標値を上回っており、望ましい状態に到達していると言える。反面、数年前にすでに最終年度の目標をクリアしており、低めの数値目標だったのではない。
- ・中心経営体への農地集積は、一般的に農地集積率が下がるということは考えられない中で、どのような事情があったか明記すべきである。
- ・経営の多角化等による新たな雇用の確保について、平成29年度の雇用者の伸びがとりわけ大きい(12名)ことは評価できる。
- ・取組を通じてどのように地域活性化がなされたのかが、報告書から読み取れない。農地集約やフォアスの導入で米作の生産性が高まったことは推測されるが、他の園芸作物等についても定性的評価でもよいので記述してほしい。
- ・全体として「次世代型農業生産構造」の意味する内容が不明瞭である。最終的にどのような農業生産構造を実現しようとしているのか。中心経営体への農地集積率が70%を達成した時の農業経営体は集落営農なのか、それらを束ねた農業法人連合とはどのような経営体となるのか示してもらいたい。

専門家による評価(専門家の総合的な所見)の平均値

3.3

総合評価

I、II及びIIIを1:1:2の比率で計算 $(4.5 + 3.2 + 3.3 \times 2) / 4 = 3.6$

3.6

(注)評価に係る評点及び表記の考え方については以下のとおり。

- ・評価は5～1(評点)で行う。
- ・進捗度は、100%以上を5、80%以上100%未満を4、60%以上80%未満を3、40%以上60%未満を2、40%未満を1とする。
- ・進捗度以外の評価項目における評点は、5:著しく優れている、4:十分に優れている、3:適当である、2:適当であると認めるには不十分である、1:適当であると認められないとする。